

プログラム近況報告

マラウイ共和国 カリラ地域開発プログラム(MWI-185723)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

各家庭へトイレの設置を行っています



支援地域の子どもたち

カリラ地域開発プログラム(以下、ADP)では、伝統的な衛生習慣を変える取り組みを強化しています。2012年11月に行われた調査によると、地域の約半数の家庭ではトイレがなく藪の中で用を足しており、下痢、赤痢、マラリアなどの原因となっていました。この調査結果を受けて、トイレの習慣やゴミ処理に関する啓発活動を行ったほか、各家庭へのトイレの設置も進んでいます。トイレには安全に留意した落下防止のカバーや手洗い場も設置し、予防可能な病気から身を守るための知識が広められています。



学校内に新しいトイレと手洗いバケツが設置され喜んでいます。衛生状態が改善され、病気にかけにくくなりました

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーの皆さま

カリラ子どもたち、またコミュニティに代わり、皆さまからのご支援に心から感謝申し上げます。皆さまからの温かいご支援により、保健、教育、農業といったさまざまな分野の開発支援を行うことができ、地域の生活水準が確実に改善されています。感謝とともに、ご報告させていただきます。

アルフレッド・マンガンド（カリラADPマネージャー）



経済開発プロジェクト

融資を受けて収入の道が開け、子どもたちが学校にも行けるようになりました

経済開発プロジェクトでは、貯蓄融資組合の活動を通じて地域の人びとの経済状況の改善を目標としています。

貯蓄融資組合は、貯蓄貸付グループで構成されています。グループを結成すると、金庫や帳簿など運営に必要な備品が支援されます。グループのメンバーは定期的に集まりお金を出し合い、順番に融資を受ける仕組みになっています。この融資により、例えば農家であれば必要な農機具や種を購入できます。

今年度は、このプロジェクトを通じて村の貯蓄貸付グループが8つ増え、現在113のグループが活動を

行っています。このグループには今年度新たに約1,400人が活動に参加するようになり、組合員は3,617人に達しました。

子どもは以前、学校に行くための洋服や身ぎれいにするための石けんがないために、学校に行きたくないということがありました。コミュニティが家族に対して融資することで、これらの洋服や必要な物資を購入したり学費を支払うことができ、学校に行かない子どもたちの割合が減少しました。また、これまでのわらの屋根より丈夫で雨にも強いトタン屋根の家を建てることのできた世帯もありました。



「村の貯蓄貸付グループから融資を受け、両親はトタンシートを購入することができました。私たちはもうわらの屋根のもとで眠らなくてよくなりました。丈夫な家に住めることが、嬉しいです」（グレースちゃん、6歳）



村の貯蓄貸付グループに参加する組合員たち

この地域の貧弱な土壌が収穫不足や栄養不足に影響します。村の貯蓄貸付グループからの融資により、多くの家族が肥料や種を買うことができました。ヤンコ君と弟のクンプカニ君は、両親が村の貯蓄貸付グループからの融資を受け購入した肥料をメイズ畑にまくことができ喜んでいます



教育プロジェクト

就学前教育を受けて、小学校の入学率が向上しています

カリラ地域の教育の質を改善するため、小学校に教師用の宿舍と就学前教育 (ECD) センターの建設を行いました。教師が子どもたちと向き合う時間が増え、ECDセンターの入学率が上がり子どもたちが積極的に活動に参加するようになることで、子どもたちの対話力、認知力、運動能力などに変化がみられるようになってきました。これらの成果は、小学校の入学率の向上にもつながっています。今年度、404人の児童が小学校に入学しましたが、このうち51人がECDに通っていた生徒です。

支援地域内のある地区では、今年度、受験者数は277人のうち、107人がPSLCE^{*}に合格しました。これは近隣の地域より高い合格率です。また、11歳までに読み書きができる子どもの割合は61%になりました。これは皆さまからのご支援により、教え、学ぶ環境が改善したことによります。また教員

用の家が整えられたこと、またスポーツ活動の推進なども子どもたちの学びに大きく貢献しています。

※PSLCE：初等学校教育卒業試験

8年制の小学校を修了する際に受験する。基本的にはこれに合格して中高等学校 (Secondary School) に進学できる。



皆さまのご支援によって建設された、子どもにやさしい教育施設で学ぶ子どもたち

スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

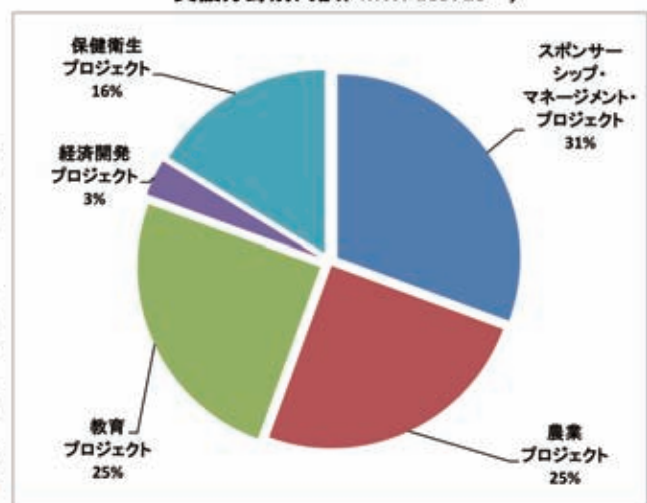
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	MWI-185723 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	52,920,827
当期支援額	52,920,827
前期繰越金	3,448,223
プログラム支援額合計	56,369,050
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト	18,180,340
農業プロジェクト	14,801,439
教育プロジェクト	14,835,927
経済開発プロジェクト	1,885,691
保健衛生プロジェクト	9,658,319
プログラム支出額合計	59,361,716
次期繰越額	-2,992,666

支援分野別内訳 (MWI-185723)



農業プロジェクト

灌がい用水路が整備され冬場も農作物が収穫できるようになりました

農業プロジェクトでは、支援地域内での十分な食料確保と子どもたちの栄養状態の改善を目標に活動を進めています。支援地域では、1月～3月の冬場は食料確保が厳しく、多くの家庭で食べ物を得ることができていませんでした。

本プロジェクトでは、農地に灌がい用水路を整備し、概ね完成しています。あわせてトレーニングや技術支援を実施したり、メイズやジャガイモ、野菜の種を提

供したことで、地域の人々は一年を通して農地を耕作することができるようになり、作物の収穫量が向上しました。この結果、地域の約半数の家庭で十分な食料を蓄えることができるようになったほか、バナナなど毎週収穫できるものは、まずは自分たちで食べ、残った分は売って現金収入を得られるようになりました。



ワールド・ビジョンからの支援によって建設中の灌がい用水路



新たな灌がいシステムによってできた作物

保健衛生プロジェクト

蚊帳や寄生虫予防薬などの支給で子どもの健康が守られています

子どもたちの健やかな成長を確かなものにするために、保健衛生プロジェクトでは子どもたちが医療サービスを受けたり、きれいな水を利用できるように努めました。

また、マラリアや腸内寄生虫、住血吸虫病、下痢のような命にかかわる病気を予防できるように、人々の衛生意識の啓発活動を行いました。

今年度行われた調査によると、5歳以下の子どものうち、27%が防虫加工処理を施した蚊帳を使用しており、68%の子どもたちが下痢の治療を早期に受けることができるようになっていきます。皆さまの支援のもと、ワールド・ビジョンの活動による子どもの健康週

間キャンペーンや衛生行動促進は、このような状況改善に確実につながってきています。



マラリア予防のために子どもたちに防虫加工された蚊帳を配布するワールド・ビジョンスタッフとコミュニティリーダー

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

マラウイ共和国 クーユ地域開発プログラム MWI-182599



子どもたち自身が子どもの権利を理解し、啓発活動を行っています

ビタミン不足に起因する病気の削減を願い、オレンジ、グアバ、レモンなどの果樹の苗木を2,000本配り、果樹の苗木を植える活動を行いました。子どもたちのビタミン不足の解消を目指しています

クーユ地域開発プログラム(以下、ADP)では、保健衛生、教育、農業の分野で活動を実施しています。これらの活動の一環でアドボカシーにも力を入れてきています。今年度、社会福祉省と協力して、アドボカシーのキャンペーンを行いました。このキャンペーンでは、子どもたちが自分自身の権利に気づくこと、学校の中途退学や早婚、性的暴力やそのほかの虐待などから子どもたちが守られること、またそのために子どもたち自身がほかの子どもたちに対して啓発していくことを学びました。



アドボカシーキャンペーンで自分たちの権利を学ぶ子どもたち

PROGRAM PROGRESS REPORT



教育プロジェクト

子どもたちが教育の大切さを理解し学校に通えるよう、
啓発活動や環境改善活動を行いました

マラウイの国で設けられている「教育の日」にイベントを開催し、子どもたち、教師、保護者、地域のリーダーたちが参加しました。このイベントでは、親の手伝いなどのために学校を休み、授業についていけなくなったり、早婚により中途退学をしてしまうことが、子どもたちの将来に大きな影響をおよぼすということについて学びました。また、子どもたちの勉強意欲を高めるために、成績が良かった子どもを表彰しました。教育の日のイベントに参加したルシアちゃんは、「これまでの勉強の頑張りを表彰してもらいました。私が頑張ることで、地域の女の子たちに、一生懸命勉強することの大切さを

伝えることができ嬉しいです」と話してくれました。そのほか、教育の重要性について学んだ母親グループが中心となって、学校に通っていない子どもたちへの啓発活動を行い、多くの子どもたちが小学校への通学を再開することができました。また、ADPからは、親が亡くなり遺児となった子どもたちや家が貧しく学校に通えなかった子どもたちへ授業料の支援を行いました。教師も生徒たちの意欲を高める授業を行うことができるようになり、必要に応じて教材の配布を行いました。また、新たに2棟の校舎と、360脚の机を小学校に支援しました。



「机の支援により、もう床に座って授業を受けなくても良くなり服も汚れず本当に嬉しいです。服だって汚れないのです。学校環境が良くなり学校にまた来るようになった友だちもいて、支援に心から感謝しています」
サロメちゃん(8年生)

支援により新しい机が入り、改善された環境で勉強できるようになりました



新たに2棟の校舎と、
360脚の机

農業プロジェクト

組合として共同で価格交渉を行うことで、農家の収入が向上しています

今年度、地域では農民共同組合を結成し、農家が共同で価格交渉を行うことにより有利な条件で販売ができるようになってきました。利益は各農家に分配し、次の作付け時期に向けて必要な機具を購入したり、子どもたちの学費に充てることができるようになりました。また、2012年から活動を始

めた村の貯蓄・融資組合の活動が根付き、地域の人々の経済力が強化されてきています。今年度は、貯蓄組合の数やメンバーの数が増え、当初は自分たちの貯蓄目的だけでしたが、最近では収入向上を目指し、グループ内で積極的に融資が行われるようになりました。



農民共同組合の活動に参加し、話し合う地域の人々

収穫量 **UP**

「貯蓄・融資組合から融資を受けて商売を始め、今では生活に必要なものを買えるようになりました」(組合に参加するメンバーの一人)



貯蓄グループの活動が活発に行われています

2013年

保健衛生プロジェクト

栄養指導や健康診断、トイレの設置により、子どもたちの健康状態が改善しています

地域の保健ワーカーと協力し、栄養不良改善キャンペーンを17の小学校で実施し、約850人の子どもたちが参加しました。このキャンペーンを通じてビタミンA、葉酸、ビタミンCなどを含む栄養価の高い食材をバランス良く摂ることの重要性を子どもたちや保護者に啓発しました。

また、マラウイ政府の保健省と協力してクーク地域の子どもの健康診断を行い、15の村で地域の人々が中心となり、子どもたちを予防可能な病気から守るため、衛生キャンペーンを行いました。キャンペーンでは、地域の衛生環境を改善するため、トイレのない家にトイレを設置し、その結果、下痢

などの病気にかかる子どもたちが減っています。

これまで、地域の小学校には、女子トイレの設備がなく、子どもたちが学校を欠席する理由の一つとなっていました。そのような状況を改善するため、小学校に女子トイレを建設しました。今後も保健省と協力のもと、学校の衛生環境改善の働きを行う予定です。

そのほか、若者たちに対しHIV/エイズの検査、感染していると分かった場合にカウンセリングのサービスを受けるように啓発活動を行いました。



「栄養バランスの摂れた食事をとることが、僕たちの健康に欠かせないと学びました」 ジョン君 (11歳)

栄養不良改善キャンペーンにおいて、議論を交わす子どもたち



健康診断を実施するコミュニティの看護師



「学校に女子トイレができ、トイレに行った後は、手洗いもできるようになったのよ。もう下痢に苦しまなくてもよくなり、勉強にも集中できるようになってとても嬉しい！」
4年生のメモリーちゃん (11歳)



17校で
栄養改善キャンペーン



15村で
衛生キャンペーン

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャ

イルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っていきます。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADP マネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーの皆さま

皆さまがご支援くださっているチャイルド、またクーユ地域の人々に代わり、ごあいさつ申し上げます。

皆さまからのご支援により、クーユ地域の子どもたちと地域に大きな変化がもたらされています。プログラムでは、農業、保健、教育分野での活動に力を入れています。ご支援により、特に子どもたちがより良い学習環境で学べるよう環境を整えつつあり、すべての成果が皆さまのご支援によって実現してきております。本当にありがとうございます。



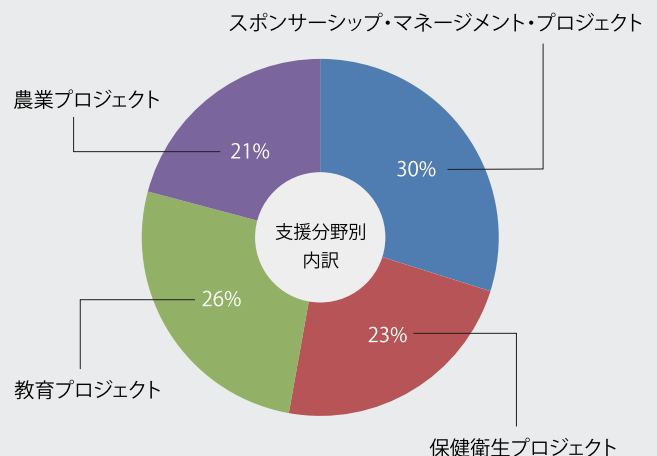
カスジ・コネックス・ムバルコ
(クーユADPマネージャー)

会計報告

MWI - 182599

収支計算書 自 2012年 10月1日 至 2013年9月30日

プログラム支援額 (単位:円)	
チャイルド・スポンサーシップ	71,810,827
当期支援額	71,810,827
前期繰越金	8,192,964
プログラム支援額合計	80,003,791
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネージメント・プロジェクト	23,282,073
保健衛生プロジェクト	17,882,418
教育プロジェクト	20,513,413
農業プロジェクト	16,259,322
プログラム支出額合計	77,937,226
次期繰越額	2,066,565



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 19:00)

FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : www.worldvision.jp

e-mail : dservice@worldvision.or.jp